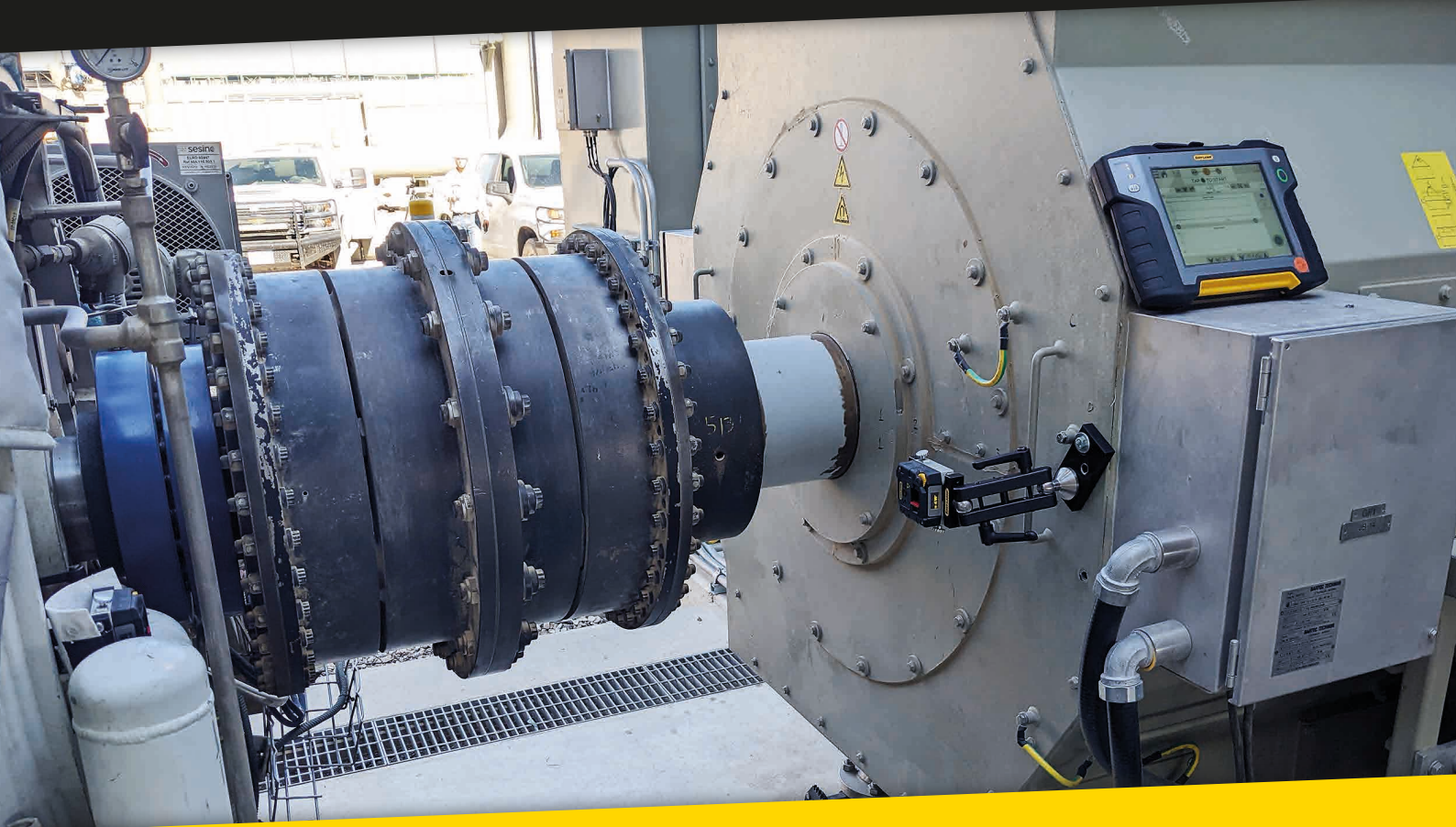




動的測定

機械故障を未然に防止

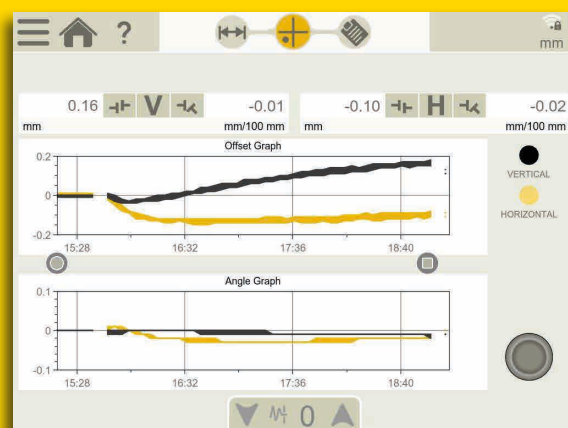
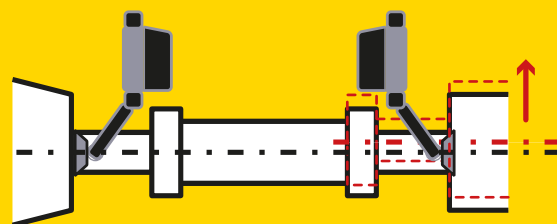
動的測定とは、望まれていない動きを見つけることです。それは常に力から生じます。熱膨張や熱収縮、配管のひずみ（動的および静的）、付加荷重（サイレンサーなど）のようすべての過剰な力は、機械のケーシングに応力を発生させ、機械の設計形状を動かしたり、変更したりする可能性があります。それは、内部的にも外部的にもズレの原因となります。漏れが発生したり、ひずんだケーシングによって固定部品と回転部品との内部接触を引き起こしたりします。修正しなければ、必然的に機械の故障につながります。動的測定を行うことで、これらすべてを回避できます。

あらゆる動きの記録

EasyTrend は、Easy-Laser® のアプリケーションであり、水平軸および垂直軸の両方で、回転機械のあらゆる動き（角度とオフセット）をリアルタイムで測定および記録します。動きを記録する間隔は、任意の時間に設定できます。参照用やトラブルシューティング用に、測定結果のレポートを作成できます。

いつ測定するか

動的測定は、稼働を開始する前のSAT（現場受入試験）、またはオーバーホールで機器を取り外して元に戻すたびに行う必要があります。このようにして、信頼性の高い機械設置を保証し、起こりうる損失の大きい機械故障によるダウンタイムを防止します。



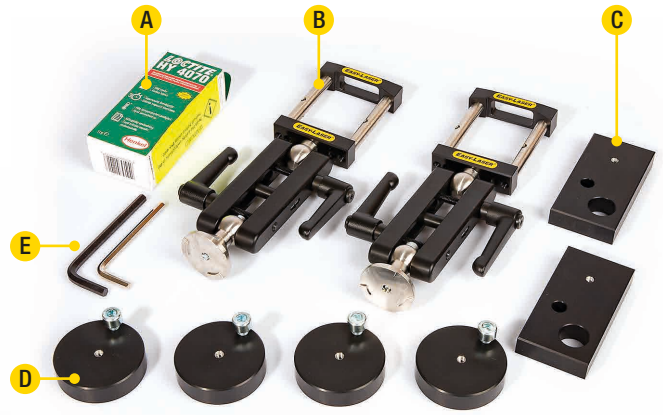
XT用 EasyTrend™ プログラムで水平方向・垂直方向（オフセットと角度）両方向の経時的な動きを表示

DMブラケット

動的測定の信頼性を高めるには、特殊なDMブラケットを機械に取り付ける必要があります。一方の測定ユニットを駆動側に取り付け、もう一方を被駆動側に取り付けます（表紙の写真参照）。キットには2種類のアタッチメントプレートが含まれており、機械に接着するものと、ボルトで固定するものがあります。アプリケーションに最適なものを選択してください。次に、実際のDMブラケットをプレートにねじ込みます。測定後、ブラケットを取り外し、必要に応じてプレートも取り外します。

システム要件

DMブラケットキットとXTアライメントアプリの他に、システムXT770に含まれる測定ユニットXT70-MおよびXT70-Sも必要です。測定ユニットを正しく配置するために、延長ブラケット(F)が必要になる場合があります。サポートについては、代理店にご連絡ください。



A. 接着剤 Locktite 4070

B. DMブラケット

C. ボルト固定式長方形取付プレート

D. 接着式丸形取付プレート

E. 六角レンチ (5mm・6mm)

F. 延長DMブラケット

Part No. 12-1129 (別売り)

G. コンプリートキット (延長用2個分のスペースもあり)

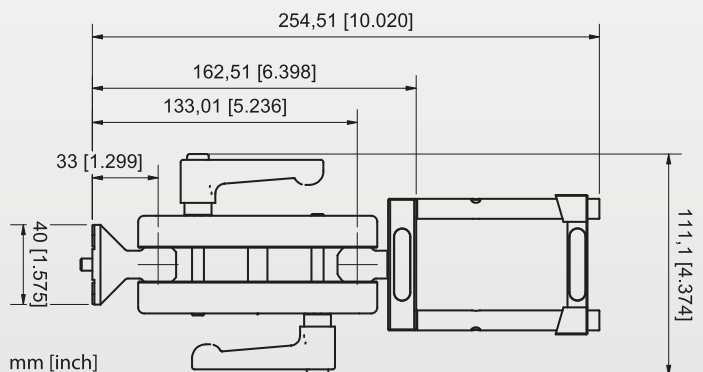


Easy-Laser® DMブラケットコンプリートキット Part No. 12-1130

- 1 接着剤 Locktite 4070
- 2 DMブラケット
- 2 ボルト固定式長方形取付プレート (WxHxD 100 x 50 x 15 mm)
- 4 接着式丸形取付プレート (直径 60 mm、厚さ 15 mm)
- 2 六角レンチ (5mm・6mm)
- 4 スクリュー M8x20
- 1 クイックマニュアル
- 1 キャリーケース

寸法 WxHxD: 330x285x135 mm

重量 (コンプリートキット): 4180 g



パイプのひずみについて

パイプのひずみには、動ひずみと静ひずみの2種類があります。

パイプの静ひずみは、パイプフランジが入口/排出フランジに対してずれている状態です。これは組み立て手順が不十分であるか、サポートが不十分であり、フレキシブル接続や補正器が取り付けられていないことが原因である可能性があります。

パイプの動ひずみは、システムの動作中に発生します。これは、熱膨張、媒体/流体の重量と圧力、不適切なサポートによるものです。

